

① 会社名：

② 連絡先：

③ 食品添加物名：トマト色素

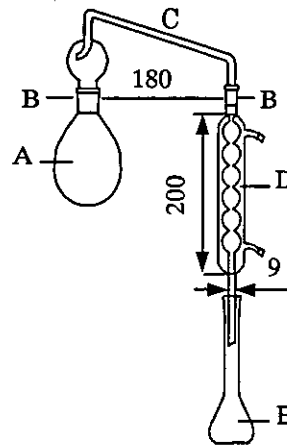
④ 残留溶媒名

残留溶媒（色価 300 に換算）アセトン  $30 \mu\text{g/g}$  以下，酢酸エチル  $50 \mu\text{g/g}$  以下，ヘキサン  $25 \mu\text{g/g}$  以下

⑤ 試験法：

(i) 装置

概略は次の図による。



A：ナス型フラスコ（200ml）

B：すり合わせ連結部

C：しぶき止め付き蒸留管

D：冷却器

E：メスフラスコ（50ml）

(ii) 操作法

本品の表示量から、色価 300 に換算して約 5.0g に相当する量をナス型フラスコ A に精密に量り、トルエン 100ml を入れ、よく混和し、沸騰石を加える。メスフラスコ E に内標準液 2.5ml を正確に量って入れ、装置を組み立てる。すり合わせ連結部をトルエンでぬらす。1 分間に 2～3ml の留出速度で蒸留して、留液約 45ml を採り、トルエンを加えて正確に 50ml とし、検液とする。ただし、内標準液は、テトラヒドロフランのトルエン溶液（1→10000）とする。別に、アセトン約 0.3g、酢酸エチル約 0.5 g 及びヘキサン約 0.25g を精密に量り、トルエンを加えて正確に 100ml とする。この液 2ml を正確に量り、トルエンを加えて正確に 100ml とする。この液 2.5ml 及び内標準液 2.5ml を正確に量り、トルエンを加えて正確に 50ml とし、標準液とする。検液及び標準液をそれ

ぞれ 1.0 $\mu$ l ずつ量り、次の操作条件でガスクロマトグラフィーを行う。それぞれの液のテトラヒドロフランのピーク面積に対するアセトン、酢酸エチル及びヘキサンのピーク面積比  $Q_{T1\sim 3}$  及び  $Q_{S1\sim 3}$  を求め、以下の式により、アセトン、酢酸エチル及びヘキサンの量を求める。

アセトンの量（色価 300 に換算）

$$= \frac{\text{アセトンの採取量(g)}}{\text{試料の表示色価} \times \text{試料の採取量(g)}} \times \frac{Q_{T1}}{Q_{S1}} \times 150,000 (\mu\text{g/g})$$

酢酸エチルの量（色価 300 に換算）

$$= \frac{\text{酢酸エチルの採取量(g)}}{\text{試料の表示色価} \times \text{試料の採取量(g)}} \times \frac{Q_{T2}}{Q_{S2}} \times 150,000 (\mu\text{g/g})$$

ヘキサンの量（色価 300 に換算）

$$= \frac{\text{ヘキサンの採取量(g)}}{\text{試料の表示色価} \times \text{試料の採取量(g)}} \times \frac{Q_{T3}}{Q_{S3}} \times 150,000 (\mu\text{g/g})$$

#### 操作条件

検出器 水素炎イオン化検出器

カラム 内径 0.53mm, 長さ 30m のフューズドシリカ管の内面にガスクロマトグラフィー用ポリスチレン-ジビニルベンゼンを厚さ 40 $\mu$ m で被覆する。

カラム温度 150 $^{\circ}$ C から毎分 10 $^{\circ}$ C で 170 $^{\circ}$ C まで昇温し、その後毎分 3 $^{\circ}$ C で 185 $^{\circ}$ C まで昇温する。

注入口温度 250 $^{\circ}$ C 付近の一定温度

注入方式 全量注入法

キャリアーガス 窒素又はヘリウム

流量 テトラヒドロフランの保持時間が約 4 分になるように調整する。

⑥ 参考資料等：特になし

以 上

① 会社名：

② 連絡先：

③ 食品添加物名：ヘマトコッカス藻色素

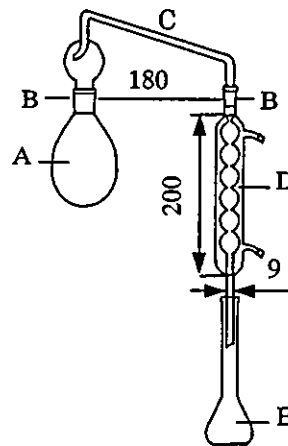
④ 残留溶媒名：

残留溶媒（色価 300 に換算）アセトン  $30 \mu\text{g/g}$  以下，ヘキサン  $25 \mu\text{g/g}$  以下

⑤ 試験法：

(i) 装置

概略は次の図による。



A：ナス型フラスコ（200ml）

B：すり合わせ連結部

C：しぶき止め付き蒸留管

D：冷却器

E：メスフラスコ（50ml）

(ii) 操作法

本品の表示量から、色価 600 に換算して約 5.0g に相当する量をナス型フラスコ A に精密に量り、トルエン 100ml を入れ、よく混和し、沸騰石を加える。メスフラスコ E に内標準液 2.5ml を正確に量って入れ、装置を組み立てる。すり合わせ連結部をトルエンでぬらす。1 分間に 2～3ml の留出速度で蒸留して、留液約 45ml を採り、トルエンを加えて正確に 50ml とし、検液とする。ただし、内標準液は、テトラヒドロフランのトルエン溶液 (1→10,000) とする。別に、アセトン約 0.3g、ヘキサン約 0.25g を精密に量り、トルエンを加えて正確に 100ml とする。この液 2ml を正確に量り、トルエンを加えて正確に 100ml とする。この液 2.5ml 及び内標準液 2.5ml を正確に量り、トルエンを加えて正確に 50ml とし、標準液とする。検液及び標準液をそれぞれ  $1.0 \mu\text{l}$  ずつ量り、次の操作条件でガスクロマトグラフィーを行う。それぞれの液のテトラヒドロフランのピーク面積に

対するアセトン、ヘキサンのピーク面積比  $Q_{T1\sim 2}$  及び  $Q_{S1\sim 2}$  を求め、以下の式により、アセトン、ヘキサンの量を求める。

アセトンの量（色価 600 に換算）

$$= \frac{\text{アセトンの採取量(g)}}{\text{試料の表示色価} \times \text{試料の採取量(g)}} \times \frac{Q_{T1}}{Q_{S1}} \times 300,000 (\mu\text{g/g})$$

ヘキサンの量（色価 600 に換算）

$$= \frac{\text{ヘキサンの採取量(g)}}{\text{試料の表示色価} \times \text{試料の採取量(g)}} \times \frac{Q_{T2}}{Q_{S2}} \times 300,000 (\mu\text{g/g})$$

#### 操作条件

検出器 水素炎イオン化検出器

カラム 内径 0.53mm, 長さ 30m のフューズドシリカ管の内面にガスクロマトグラフィー用ポリスチレン-ジビニルベンゼンを厚さ 40 $\mu\text{m}$  で被覆する。

カラム温度 150 $^{\circ}\text{C}$  から毎分 10 $^{\circ}\text{C}$  で 170 $^{\circ}\text{C}$  まで昇温し、その後毎分 3 $^{\circ}\text{C}$  で 185 $^{\circ}\text{C}$  まで昇温する。

注入口温度 250 $^{\circ}\text{C}$  付近の一定温度

注入方式 全量注入法

キャリアーガス 窒素又はヘリウム

流量 テトラヒドロフランの保持時間が約 4 分になるように調整する。

⑥ 参考資料等：特になし

以 上

## 残留溶媒に関する試験法について提供のあった品目

### 1. 部会名

第4部会

### 2. 追加提供のあった品目

- (1) 加工ユーケマ藻類
- (2) カロブبینガム
- (3) キサンタンガム
- (4) グァーガム
- (5) ジェランガム
- (6) 精製カラギナン
- (7) ペクチン
- (8) マクロホモブシスガム
- (9) ラムザンガム

残留溶媒に関する試験法追加提供の件

① 会社名

② 連絡先

- ・ 担当者名
- ・ 電話番号

③ 食品添加物名

加工ユーケマ藻類

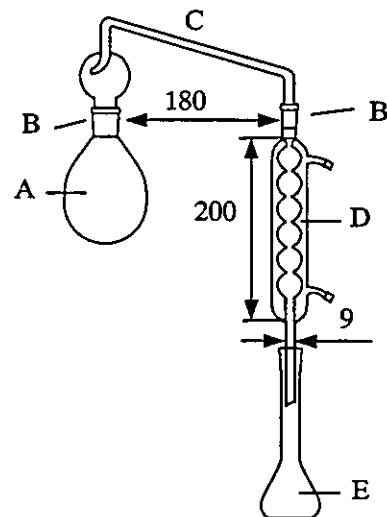
④ 残留溶媒名

2-プロパノール、メタノール（合計量で0.1%以下）

⑤ 試験法

(i) 装置

概略は次の図による。



- A: ナス型フラスコ (300ml)
- B: すり合わせ連結部
- C: しぶき止め付き蒸留管
- D: 冷却器
- E: メスフラスコ (100ml)

(ii) 操作法

本品約 2g をナス型フラスコAに精密に量り、水 200ml、数個の沸騰石及びシリコーン樹脂約 1ml を入れ、よく混和する。内標準溶液 4ml を正確に量り、メスフラスコ E に入れ、装置を組み立てる。すり合わせ連結部を水でぬらす。泡がしぶき止め付き蒸留管 C に入らないように調整しながら1分間に2~3mlの留出速度で蒸留して、留液約 90ml を採り、水を加えて正確に 100ml とし、検液とする。ただし、内標準溶液は、*tert*-ブタノール溶液 (1 → 1000) とす

る。別に、メタノール及び2-プロパノール約0.5gを精密に量り、水を加えて正確に50mlとする。この液5mlを正確に量り、水を加えて正確に50mlとする。この液2ml及び内標準溶液4mlを正確に量り、水を加えて正確に100mlとし、標準液とする。検液及び標準液をそれぞれ2.0 $\mu$ lずつ量り、次の操作条件でガスクロマトグラフィーを行う。検液及び標準液の *tert*-ブタノールのピーク面積に対するメタノール及び2-プロパノールのピーク面積比  $Q_{T1}$ 、 $Q_{T2}$ 及び $Q_{S1}$ 、 $Q_{S2}$ を求め、以下の式により、メタノール及び2-プロパノールの量を求める。

$$\text{メタノールの量} = \frac{\text{メタノールの採取量(g)}}{\text{試料の採取量(g)}} \times \frac{Q_{T1}}{Q_{S1}} \times 0.4 (\%)$$

$$\text{2-プロパノールの量} = \frac{\text{2-プロパノールの採取量(g)}}{\text{試料の採取量(g)}} \times \frac{Q_{T2}}{Q_{S2}} \times 0.4 (\%)$$

#### 操作条件

検出器 水素炎イオン化検出器

カラム充てん剤 180~250 $\mu$ m のスチレン・ジビニルベンゼン系多孔性樹脂、ガスクロマトグラフィー用

カラム管 内径 3mm, 長さ 2m のガラス管

カラム温度 120 $^{\circ}$ C付近の一定温度

注入口温度 200 $^{\circ}$ C付近の一定温度

キャリアーガス 窒素又はヘリウム

流量メタノールの保持時間が約2分、2-プロパノールの保持時間が約10分になるように調整する。

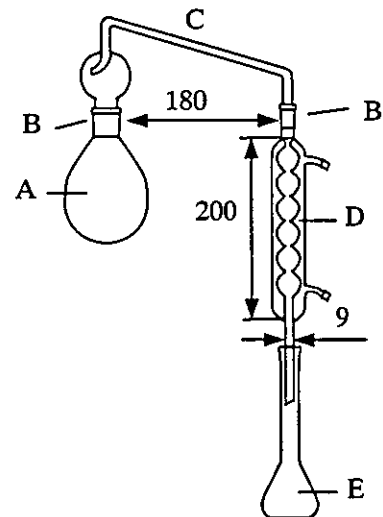
#### ⑥ 参考資料等

カラム: ジーエルサイエンス株式会社製 Gaskuropack 54

以上

残留溶媒に関する試験法追加提供の件

- ① 会社名
- ② 連絡先
- ・ 担当者名
  - ・ 電話番号
- ③ 食品添加物名  
カロブビーンガム
- ④ 残留溶媒名  
2-プロパノール (1.0%以下)
- ⑤ 試験法
- (i) 装置
- 概略は次の図による。



- A: ナス型フラスコ (300ml)  
B: すり合わせ連結部  
C: しぶき止め付き蒸留管  
D: 冷却器  
E: メスフラスコ (100ml)

(ii) 操作法

本品約 2g をナス型フラスコAに精密に量り、水 200ml、数個の沸騰石及びシリコーン樹脂約 1ml を入れ、よく混和する。内標準溶液 4ml を正確に量り、メスフラスコEに入れ、装置を組み立てる。すり合わせ連結部を水でぬらす。泡がしぶき止め付き蒸



留管 C に入らないように調整しながら 1 分間に 2~3ml の留出速度で蒸留して、留液約 90ml を採り、水を加えて正確に 100ml とし、検液とする。ただし、内標準溶液は、*tert*-ブタノール溶液 (1 → 1000) とする。別に、2-プロパノール約 0.5g を精密に量り、水を加えて正確に 50ml とする。この液 5ml を正確に量り、水を加えて正確に 50ml とする。この液 20ml 及び内標準溶液 4ml を正確に量り、水を加えて正確に 100ml とし、標準液とする。検液及び標準液をそれぞれ 2.0 μl ずつ量り、次の操作条件でガスクロマトグラフィーを行う。検液及び標準液の *tert*-ブタノールのピーク面積に対する 2-プロパノールのピーク面積比  $Q_T$  と  $Q_S$  を求め、次式により 2-プロパノールの量を求める。

$$\text{2-プロパノールの量} = \frac{\text{2-プロパノールの採取量 (g)}}{\text{試料の採取量 (g)}} \times \frac{Q_T}{Q_S} \times 4 (\%)$$

#### 操作条件

検出器 水素炎イオン化検出器

カラム充てん剤 180~250 μm のスチレン・ジビニルベンゼン系多孔性樹脂、ガスクロマトグラフィー用

カラム管 内径 3mm、長さ 2m のガラス管

カラム温度 120℃ 付近の一定温度

注入口温度 200℃ 付近の一定温度

キャリアーガス 窒素又はヘリウム

流量 2-プロパノールの保持時間が約 10 分になるように調整する。

#### ⑥ 参考資料等

カラム： ジーエルサイエンス株式会社製 Gaskuropack 54

以上

残留溶媒に関する試験法追加提供の件

① 会社名

② 連絡先

- ・ 担当者名
- ・ 電話番号

③ 食品添加物名

キサントンガム

④ 残留溶媒名

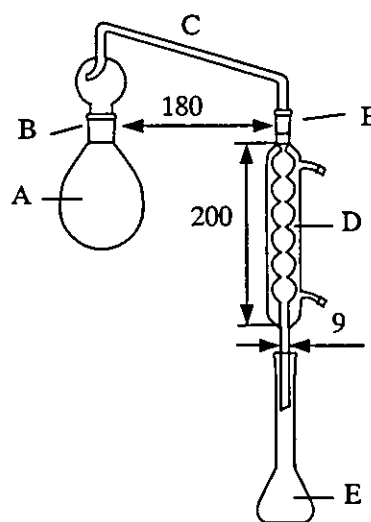
2-プロパノール (500  $\mu$ g/g 以下)

⑤ 試験法

(i) 装置

概略は次の図による。

- A: ナス型フラスコ (300ml)
- B: すり合わせ連結器
- C: しぶき止め付き蒸留管
- D: 冷却器
- E: メスフラスコ (100ml)



(ii) 操作法

本品約 2g をナス型フラスコAに精密に量り、水 200ml、数個の沸騰石及びシリコーン樹脂約 1ml を入れ、よく混和する。内標準溶液 4ml を正確に量り、メスフラスコEに入れ、装置を組み立てる。すり合わせ連結部を水でぬらす。泡がしぶき止め付き蒸留管 C に入らないように調整しながら1分間に2~3mlの留出速度で蒸留して、留液約 90ml を採り、水を加えて正確に 100ml とし、検液とする。ただし、内標準溶液は、*tert*-ブタノール溶液 (1 → 1000) とする。別に、2-プロパノール約 0.5g を精密に量り、水を加えて正確

に 50ml とする。この液 5ml を正確に量り、水を加えて正確に 50ml とする。この液 2ml 及び内標準溶液 8ml を正確に量り、水を加えて正確に 200ml とし、標準液とする。検液及び標準液をそれぞれ 2.0  $\mu$ l ずつ量り、次の操作条件でガスクロマトグラフィーを行う。検液及び標準液の *tert*-ブタノールのピーク面積に対する 2-プロパノールのピーク面積比  $Q_T$  と  $Q_S$  を求め、次式により 2-プロパノールの量を求める。

$$\text{2-プロパノールの量} = \frac{\text{2-プロパノールの採取量 (g)}}{\text{試料の採取量 (g)}} \times \frac{Q_T}{Q_S} \times 2000 \text{ (}\mu\text{g/g)}$$

#### 操作条件

検出器 水素炎イオン化検出器

カラム充てん剤 180~250  $\mu$ m のスチレン・ジビニルベンゼン系多孔性樹脂、ガスクロマトグラフィー用

カラム管 内径 3mm, 長さ 2m のガラス管

カラム温度 120 $^{\circ}$ C 付近の一定温度

注入口温度 200 $^{\circ}$ C 付近の一定温度

キャリアーガス 窒素又はヘリウム

流量 2-プロパノールの保持時間が約 10 分になるように調整する。

#### ⑥ 参考資料等

カラム: ジーエルサイエンス株式会社製 Gaskuropack 54

以上

残留溶媒に関する試験法追加提供の件

① 会社名

② 連絡先

- ・ 担当者名
- ・ 電話番号

③ 食品添加物名

グァーガム

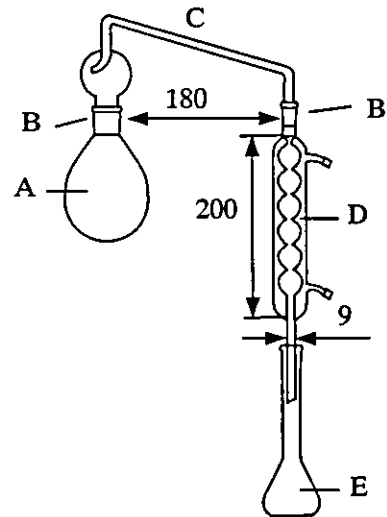
④ 残留溶媒名

2-プロパノール (1.0%以下)

⑤ 試験法

(i) 装置

概略は次の図による。



A: ナス型フラスコ (300ml)

B: すり合わせ連結部

C: しぶき止め付き蒸留管

D: 冷却器

E: メスフラスコ (100ml)

(ii) 操作法

本品約 2g をナス型フラスコAに精密に量り、水 200ml、数個の沸騰石及びシリコーン樹脂約 1ml を入れ、よく混和する。内標準溶液 4ml を正確に量り、メスフラスコEに入れ、装置を組み立てる。すり合わせ連結部を水でぬらす。泡がしぶき止め付き蒸

留管 C に入らないように調整しながら 1 分間に 2~3ml の留出速度で蒸留して、留液約 90ml を採り、水を加えて正確に 100ml とし、検液とする。ただし、内標準溶液は、*tert*-ブタノール溶液 (1 → 1000) とする。別に、2-プロパノール約 0.5g を精密に量り、水を加えて正確に 50ml とする。この液 5ml を正確に量り、水を加えて正確に 50ml とする。この液 20ml 及び内標準溶液 4ml を正確に量り、水を加えて正確に 100ml とし、標準液とする。検液及び標準液をそれぞれ 2.0 μl ずつ量り、次の操作条件でガスクロマトグラフィーを行う。検液及び標準液の *tert*-ブタノールのピーク面積に対する 2-プロパノールのピーク面積比  $Q_T$  と  $Q_S$  を求め、次式により 2-プロパノールの量を求める。

$$\text{2-プロパノールの量} = \frac{\text{2-プロパノールの採取量(g)}}{\text{試料の採取量(g)}} \times \frac{Q_T}{Q_S} \times 4 (\%)$$

#### 操作条件

検出器 水素炎イオン化検出器

カラム充てん剤 180~250 μm のスチレン・ジビニルベンゼン系多孔性樹脂、ガスクロマトグラフィー用

カラム管 内径 3mm, 長さ 2m のガラス管

カラム温度 120℃ 付近の一定温度

注入口温度 200℃ 付近の一定温度

キャリアーガス 窒素又はヘリウム

流量 2-プロパノールの保持時間が約 10 分になるように調整する。

#### ⑥ 参考資料等

カラム: ジーエルサイエンス株式会社製 Gaskuropack 54

以上

残留溶媒に関する試験法追加提供の件

① 会社名

② 連絡先

- ・ 担当者名
- ・ 電話番号

③ 食品添加物名

ジェランガム

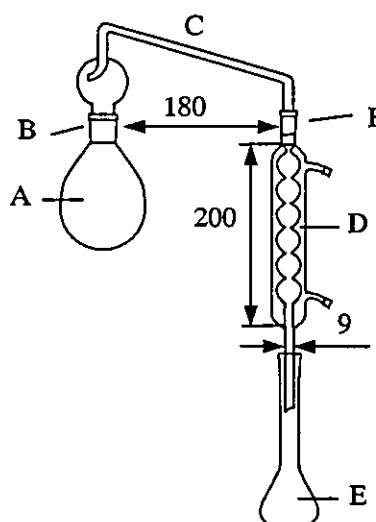
④ 残留溶媒名

2-プロパノール (750  $\mu$ g/g 以下)

⑤ 試験法

(i) 装置

概略は次の図による。



A: ナス型フラスコ (300ml)

B: すり合わせ連結器

C: しぶき止め付き蒸留管

D: 冷却器

E: メスフラスコ (100ml)

(ii) 操作法

本品約 2g をナス型フラスコ A に精密に量り、水 200ml、数個の沸騰石及びシリコーン樹脂約 1ml を入れ、よく混和する。内標準溶液 4ml を正確に量り、メスフラスコ E に入れ、装置を組み立てる。すり合わせ連結部を水でぬらす。泡がしぶき止め付き蒸留管 C に入らないように調整しながら 1 分間に 2~3ml の留出速度で蒸留して、留液約 90ml を採り、水を加えて正確に 100ml とし、検液とする。ただし、内標準溶液は、*tert*-ブタノール溶液 (1 → 1000) とする。別に、2-プロパノール約 0.5g を精密に量り、水を加えて正確

に 50ml とする。この液 5ml を正確に量り、水を加えて正確に 50ml とする。この液 3ml 及び内標準溶液 8ml を正確に量り、水を加えて正確に 200ml とし、標準液とする。検液及び標準液をそれぞれ 2.0 $\mu$ l ずつ量り、次の操作条件でガスクロマトグラフィーを行う。検液及び標準液の *tert*-ブタノールのピーク面積に対する 2-プロパノールのピーク面積比  $Q_r$  と  $Q_s$  を求め、次式により 2-プロパノールの量を求める。

$$\text{2-プロパノールの量} = \frac{\text{2-プロパノールの採取量(g)}}{\text{試料の採取量(g)}} \times \frac{Q_r}{Q_s} \times 3000 \text{ (}\mu\text{g/g)}$$

#### 操作条件

検出器 水素炎イオン化検出器

カラム充てん剤 180~250 $\mu$ m のスチレン・ジビニルベンゼン系多孔性樹脂、ガスクロマトグラフィー用

カラム管 内径 3mm、長さ 2m のガラス管

カラム温度 120 $^{\circ}$ C 付近の一定温度

注入口温度 200 $^{\circ}$ C 付近の一定温度

キャリアーガス 窒素又はヘリウム

流量 2-プロパノールの保持時間が約 10 分になるように調整する。

#### ⑥ 参考資料等

カラム： ジーエルサイエンス株式会社製 Gaskuropack 54

以上

残留溶媒に関する試験法追加提供の件

① 会社名

② 連絡先

- ・ 担当者名
- ・ 電話番号

③ 食品添加物名

精製カラギナン

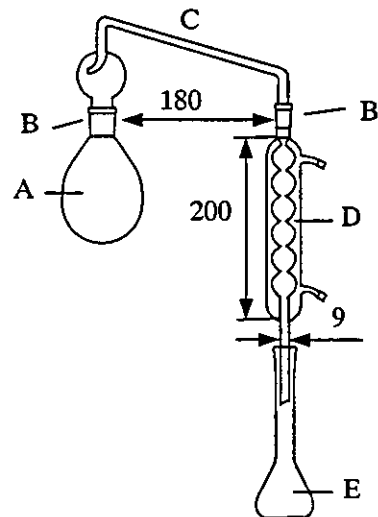
④ 残留溶媒名

2-プロパノール、メタノール（合計量で0.1%以下）

⑤ 試験法

(i) 装置

概略は次の図による。



A: ナス型フラスコ (300ml)

B: すり合わせ連結部

C: しぶき止め付き蒸留管

D: 冷却器

E: メスフラスコ (100ml)

(ii) 操作法

本品約 2g をナス型フラスコAに精密に量り、水 200ml、数個の沸騰石及びシリコーン樹脂約 1ml を入れ、よく混和する。内標準溶液 4ml を正確に量り、メスフラスコ E に入れ、装置を組み立てる。すり合わせ連結部を水でぬらす。泡がしぶき止め付き蒸留管 C に入らないように調整しながら 1 分間に 2~3ml の留出速度で蒸留して、留液約 90ml を採り、水を加えて正確に 100ml とし、検液とする。ただし、内標準溶液は、*tert*-ブタノール溶液 (1 → 1000) とす



る。別に、メタノール及び2-プロパノール約0.5gを精密に量り、水を加えて正確に50mlとする。この液5mlを正確に量り、水を加えて正確に50mlとする。この液2ml及び内標準溶液4mlを正確に量り、水を加えて正確に100mlとし、標準液とする。検液及び標準液をそれぞれ2.0 $\mu$ lずつ量り、次の操作条件でガスクロマトグラフィーを行う。検液及び標準液の *tert*-ブタノールのピーク面積に対するメタノール及び2-プロパノールのピーク面積比  $Q_{T1}$ 、 $Q_{T2}$  及び  $Q_{S1}$ 、 $Q_{S2}$  を求め、以下の式により、メタノール及び2-プロパノールの量を求める。

$$\text{メタノールの量} = \frac{\text{メタノールの採取量(g)}}{\text{試料の採取量(g)}} \times \frac{Q_{T1}}{Q_{S1}} \times 0.4 (\%)$$

$$\text{2-プロパノールの量} = \frac{\text{2-プロパノールの採取量(g)}}{\text{試料の採取量(g)}} \times \frac{Q_{T2}}{Q_{S2}} \times 0.4 (\%)$$

#### 操作条件

検出器 水素炎イオン化検出器

カラム充填剤 180~250 $\mu$ m のスチレン・ジビニルベンゼン系多孔性樹脂、ガスクロマトグラフィー用

カラム管 内径3mm、長さ2mのガラス管

カラム温度 120 $^{\circ}$ C付近の一定温度

注入口温度 200 $^{\circ}$ C付近の一定温度

キャリアーガス 窒素又はヘリウム

流量メタノールの保持時間が約2分、2-プロパノールの保持時間が約10分になるように調整する。

#### ⑥ 参考資料等

カラム：ジーエルサイエンス株式会社製 Gaskuropack 54

以上

残留溶媒に関する試験法追加提供の件

## ① 会社名

## ② 連絡先

- ・ 担当者名
- ・ 電話番号

## ③ 食品添加物名

ペクチン

## ④ 残留溶媒名

2-プロパノール、メタノール（合計量で1.0%以下）

## ⑤ 試験法

本品約0.1gを精密に量り、薄めた内標準溶液(1→25)10mlを正確に加え、密栓し、均一に分散するまで十分かくはんする。この液を遠心式限外ろ過ユニットに移し、毎分5000回転で30分間遠心分離し、ろ液を検液とする。ただし、内標準溶液は、*tert*-ブタノール溶液(1→1000)とする。別にメタノール及び2-プロパノールのそれぞれ約0.1gを精密に量り、水を加えて正確に100mlとする。この液10ml及び内標準溶液4mlを正確に量り、水を加えて正確に100mlとし、標準液とする。検液及び標準液をそれぞれ2.0 $\mu$ lずつ量り、次の操作条件でガスクロマトグラフィーを行う。検液及び標準液の*tert*-ブタノールのピーク面積に対するメタノール及び2-プロパノールのピーク面積比 $Q_{T1}$ と $Q_{T2}$ 、及び $Q_{S1}$ と $Q_{S2}$ を求め、次式により、メタノール及び2-プロパノールの量を求める。

$$\text{メタノールの量} = \frac{\text{メタノールの採取量(g)}}{\text{試料の採取量(g)}} \times \frac{Q_{T1}}{Q_{S1}} \quad (\%)$$

$$\text{2-プロパノールの量} = \frac{\text{2-プロパノールの採取量(g)}}{\text{試料の採取量(g)}} \times \frac{Q_{T2}}{Q_{S2}} \quad (\%)$$

## 試験条件

検出器 水素炎イオン化検出器

カラム充てん剤 180~250 $\mu$ m のスチレン・ジビニルベンゼン系多孔性樹脂, ガスクロ

マトグラフィー用

カラム管 内径 3mm, 長さ 2m のガラス管

カラム温度 120℃付近の一定温度

注入口温度 200℃付近の一定温度

キャリアーガス 窒素又はヘリウム

流量 メタノールの保持時間が約 2 分, 2-プロパノールの保持時間が約 10 分になるように調整する。

#### 試薬・試液

遠心式限外ろ過ユニット直径 29mm 長さ 110mm のポリプロピレン製管に, 分画分子量 3,000 の再生セルロース製膜を装着したもの, 又はこれと同等の分離特性を有するものを用いる。

#### ⑥ 参考資料等

カラム: ジーエルサイエンス株式会社製 Gaskuropack 54

遠心式限外ろ過ユニット: Millipore 製 Centriplus YM-3

以上

残留溶媒に関する試験法追加提供の件

① 会社名

② 連絡先

- ・ 担当者名
- ・ 電話番号

③ 食品添加物名

マクロホモブシスガム

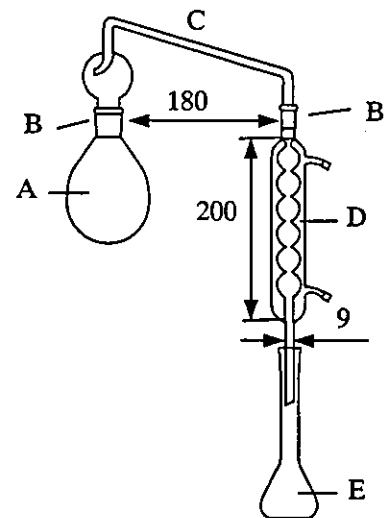
④ 残留溶媒名

2-プロパノール (0.50%以下)

⑤ 試験法

(i) 装置

概略は次の図による。



- A: ナス型フラスコ (300ml)
- B: すり合わせ連結部
- C: しぶき止め付き蒸留管
- D: 冷却器
- E: メスフラスコ (100ml)

(ii) 操作法

本品約 2g をナス型フラスコ A に精密に量り、水 200ml、数個の沸騰石及びシリコーン樹脂約 1ml を入れ、よく混和する。内標準溶液 4ml を正確に量り、メスフラスコ E に入れ、装置を組み立てる。すり合わせ連結部を水でぬらす。泡がしぶき止め付き蒸留管 C に入らないように調整しながら 1 分間に 2~3ml の留出速度で蒸留して、留液約 90ml を採り、水を